

いしかれん だより

第27号

2001. 2

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-0064 金沢市南新保町ル3番1
石川県精神保健福祉センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

当事者を中心にネットワークのある作業所活動推進

— 家族会と共に —

石川県精神障害者小規模作業所連絡協議会

会長 三谷 昭子



新年、明けましてお
めでとうございます。

いよいよ21世紀とな
り、様々な問題を持ち
越しながらも、輝かし

い未来が待っているようで気持ちも明るくな
ってきます。

さて、改めて当会（石作連）の紹介を致し
ます。母体は平成5年に石家連作業所部会と
して発足し、平成8年に石作連となりました。
年々、作業所も増加し現在に至っております。

- 構 成 15作業所 1 社会復帰施設
- 会 員 数 70名(常勤31名、非常勤39名)
男性14名 (内指導員4名)
女性56名
最多年齢層 40歳代
- 運 営 費 作業所等からの会費
事業収入等
- 活動内容 定例会 (月1回)
研修会
作業所作品展示会
各種行事に石作連として参加
その他(調査、陳情活動など)

定例会、研修会では、よりよい作業所を目

指して、又、自分達の資質の向上を目指して
活発に意見交換がなされています。どの会員
も、個性豊かで素晴らしい人達ばかりです。

作業所は働く者にとって処遇など問題があ
りますが、個性を発揮できる職場といえるで
しょう。

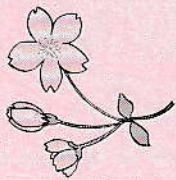
今後、小規模授産施設への法人化、介護保
険制度の導入などで、小規模作業所のあり方
も大きく変わってきます。少し、不安もあり
ますが、前進できる様に努力したいと思いま
す。

それぞれ忙しい日常の業務に追われる中、
当会は視野を広く持ち、情報を提供出来る場
となる様、より実のある会にしなければなり
ません。

精神保健福祉にたずさわる者として、主役
はあくまで障害を持っている人達で、私達は
名脇役となれる様、務めたいと思います。

最後に、家族、当事者、行政、関係職員、
ボランティアの方々が、それぞれ頑張ってい
らっしゃるのですが、今一つ、歯車が噛み合
っていない様に感じます。気軽に意見や情報
交換できる機会があれば、タテ、ヨコ、ナナ
メとネットワークが出来、活動がもっと有効
なものになると思います。

— 特集 —



家族会のこれから・

— 常務理事

司会 今日は石家連の常務理事の皆様
に、年頭に当たって抱負などを語っ
て頂きたいと思います。最初に西出
会長から、会員の皆様に一言メッセ
ージをお願い致します。

西出 明けましておめでとうございます。
さて、21世紀の節目にあたり私
たち家族会は現在の状況をどう打開
してゆくか、障害者プランの推進、
欠格条項の撤廃、小規模作業所の法
内施設化、成年後見制度の推進、手
帳サービス等々これからも努力しな
ければならないことは山積していま
す。

一日も早くトンネルから脱出して
「一人の声が世界を変える」という信
念で一人一人が頑張りましょう。

司会 この急激に変わりつつある時流の
中で、いま石家連が抱えている課題
にどう対処してゆけばよいか、具体
的にどうぞ。

梅田 会員数が増えないと、やりたい事
業も制約されてしまう。まさに数は
力なりです。

宮井 会員を増やすことを考えよう。金
沢は増えているが、能登の方はこれ
からますます減少傾向にある。県下
で3年間に1名も増えていない。350
名は変わっていない。

梶 病院家族会を増やして頂いて、石
家連に加入して貰えるよう、石家連
で家族会立ち上げのお手伝いをした
らどうか。

司会 「しらぎく会」は県内唯一の病院
家族会ですが、病院家族会のメリッ
トとして、どんな事がありますか。

梶 第一に家族会の力で、必要な精神
障害者のための施設づくりを実現さ
せることができる。

第二に情報が早く手に入る。次に
同じ悩みを持つ家族同士の新しい人
間関係をつくる事が出来る。こん
なところでしょうか。

宮井 今年から要望書を提出する際、家
族と共に障害者の人達と連携して知
事に要望書を出すようにしたらどう
か。

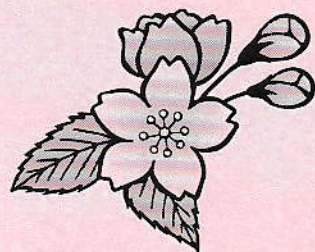
又、刻々と変わる情報を把握して
いきたい。全家連の動きや、国会に
要望したりしたその後の報告や説明
など。

宮井 メンバーの作業所から次に働く場
の問題が依然として解決されていな
いので、これをどうしてゆくか。

障害者の就労についてどのように
支援したらいいのか、ハローワーク
などのご意見を聞きながら、家族・
メンバーと一緒に検討して行きたい
と思います。

夢・21世紀に向けて

新春放談 一



司会 ではここで、これから先「こんなことをしたい」「こんなものがあたらいい」など実現不可能なことでも構いませんので、みなさまの夢を聞かせてください。

西出 家族会がオーナーになるクリニックが有ったらいいと思います。患者・家族の望む医療を。

司会 夢でしょうね。

西出 医療、福祉などの分野の、力のある人と一緒に応援団を作れば、家族だけでは出来ないことも可能になるものです。

中農 県連で研修旅行を兼ねて他県との交流会をやりたい。年1回北信越を一回りする。北陸3県でもよい。北陸3県の連絡会を作ってもいいですね。

梶 誰かが音頭をとってやれば、全国大会も夢ではない。おずかしいことのように思うけど、一泊二日をこなせばいいのですから。

草開 コンサートをやりませんか。家族会主催の芸能発表会のようなものでもいいとおもいます。家族・当事者が特技を披露することは楽しいでしょうね。家族の作品展もいいですね。

紺谷 県庁が新しくなるので、庁内の仕

事をメンバーにさせて欲しい。清掃作業等はどうでしょうか。将来は雇用というかたちにつなげて自立を促進できるように。

梅田 家族のためのパソコン教室はどうでしょう。パソコンに強いメンバーが講師になって、家族に教えるというものです。会場はパソコンの何台か使えるところを探す必要はありますが。

司会 最後に来年度の北信越研修会（石川大会）を成功させるために、一言どうぞ。

梶 主催は家族会であることをはっきり認識して、その上で作業所・施設の職員の強力な応援をお願いします。そして、保健所の支援を頂く、この体制で成功させたい。

また、各単会家族会は大会に於けるアイデア等を持ち寄って欲しい。

西出 来年度はいよいよ5年に1回の北信越大会の当番県にあたります。何とか成功させるためには、家族会員の一人ひとりが力を出しあって、最後には終わって、良かったねと何時までも思い出に残るように、悔いのない石川大会になるために、力を出して下さることを切にお願い致します。

司会 ありがとうございました。

病院長との懇談会

Q&A

平成12年10月31日 石川県精神保健福祉協会と共催で開かれた「病院長との懇談会」から一部紹介します。

(文責 石家連)

Q. 新薬のリスパダールについて詳しく説明してください。

A. 1996年4月に日本で発売されて以来、当方の病院では早くから使われていた。

発売当初の効能は自閉的、意欲低下にきくといわれていたが、年々普及率は増加しており、いずれハロペリドールを抜くと思われる。

陰性症状への効果は20～30年の長期入院者には効果が薄い。日常生活への支援やSST等の行動療法も必要。初発で陰性症状のある人に効く。セレネースと同程度、幻覚、妄想に効く。副作用は少ない。

Q. 症状の緩和と副作用の兼ね合いについて教えてください。

A. 患者の困っている症状を和らげる為の服薬内容、量は個人によって違う。量は時々によっても変わる。薬が合っていないと副作用が出やすい。副作用で薬が飲めない人がいるが、医師は飲んでいっていると思っているので、飲んでいないときは正直に言って欲しい。

Q. 精神科の往診はどのように利用できますか。

A. 当院では外来通院をしている人。入院経験のある人が利用出来る。

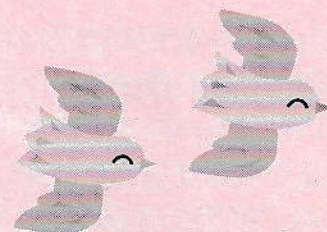
初回受診で往診依頼のある人は保健福祉センターに連絡し、本人が受診出来るケースかやむを得ず移送かなど協議している。

Q. グループホームには病院が指導管理している施設と、家族等が運営している施設があります。病院との連携や病院家族会としての運営などについて考えを聞かせてください。

A. グループホームは素晴らしい場。病院の管理を離れてできれば家族会などで作ってほしい。しかし病院との連携が大事。何かあったら夜中でも駆けつける危機への介入が不可欠です。

Q. 訪問看護を充実させてください。

A. 本人、家族は不安を持って生活しており、そのような状況の中で訪問看護への期待は大きい。当院では昭和63年より訪問看護に取り組み、一人暮らしの家、グループホームにも出かける。継続的利用者と必要時のみの方がいる。薬が飲めない、副作用等の部分への対応も実施している。健康な部分に目を向け、それを伸ばすようにしている。利用者が中心となってサービスを作っていくという世の中の流れなので、よく意見を聞くようにしている。万全ではないが、他制度と併せて使って欲しい。



地域にひらかれた家族会活動をめざして

けやきの森は、平成8年4月に金沢市駅西福祉保健センター管内の家族会として発足しました。その翌年平成9年4月に、多くの方のご支援のおかげで、作業所「クリエイションけやき」を設立することが出来ました。

作業所の運営委員会・地域連絡会には、地区の連合町会長、公民館長、婦人会長、民生委員、ボランティアの方達に委員になって頂いております。

今後、小規模作業所は、小規模授産施設への移行という大きな事業をひかえています。その為には、地域に開かれた活動をととして地域の方に、より一層の理解を頂くことの大切さを痛感しております。



作業所クリエイションけやきと家族会との共催で、「ふれあいフェスティバル」を開催しました。

当日、メンバーは売り子やウェイトレスにと大忙し。又、うさぎの縫いぐるみを着て宣伝に努めました。

家族は飲食コーナーを担当し、前日から仕込みにかかり、当日も多くの人に参加しました。

クリエイション
けやき
ふれあいフェスティバル

10月29日(日) 10:00~3:00 PM クリエーション けやきに?

フリーマーケット バザー ・寄付品の販売 ・作業所の自主製品 ・手作り品 (クッキー、お菓子、お花など) ・第3世界ジュエリー ・野菜 ・くだもの	作業所 紹介 メンバーの作った ・習字 ・絵手紙 ・プラモデルなど 作品多数	飲食 ・カレーライス ・五目ごはん ・マドレーヌ ・コーヒー ・ジュース
---	--	--

ごあいさつ

平成9年に開所した「クリエイションけやき」は、在宅の障害者が通所する小規模作業所です。毎年、開所3周年を記念して、地域のみなさまに作業所とアートを交流を深める一歩として行なう「ふれあいフェスティバル」を本年度も開催したいと思っております。皆様お買い合わせご参加下さいませ。お申し込みは、お電話にて。

☎ (金沢市) 232-2417 まで ☎ 016-266-1892

金沢市 藤江北1丁目 113

チラシ (2,000枚) ポスターは、近くの住宅、保育園、風呂屋、スーパーと広く配布しました。



平成9年から、松ヶ枝ボランティアの方と一緒にアクリルたわしを編んで参りました。このアクリルたわしを編む作業のかたわら「病気」と「障害」を理解して頂きたくて、講話やビデオ上映に参加して頂きました。又、家庭での、障害があるが故の悩みや、小さな喜びなどを話し合いました。

家族会員一人一人の力をつけよう

1. 新しく入会された会員には、病気への対応のしかた等の資料を渡すことにしています。
(病院長との懇談会で頂いた「家族の方へ」「再発防止」など)
2. 定例会で定番になっているのが保健婦さんが講師になって下さる「家族のための健康シリーズ」です。年1回で3年続いています。(検診表の見方、血液検査の大切さ、体脂肪、内臓脂肪対策など)
3. 定例会では、前回に載った「鳴和の里」「輪水会」を見習って、一人一役で会員みんなで運営する会にしたいと願っています。

トピックス

ピアカウンセリング公開講演会

H13年1月29日、石川県立中央病院健康教育館（主催・精神保健福祉センター）において、当事者、保健、医療従事者、自助グループの人など131人（家族会 18人）が参加して開催されました。

JHC板橋の寺谷隆子先生より、「経験は人生の知恵袋」と題して講演がありました。

ピアカウンセリングとは傾聴と情報提供により、当事者同志が互いに支えあう相互支援の方法であり、精神に障害のある人だけでなく、ガン克服者、介護者の会等、共通の経験や問題をもっている人の中で広まっていることを知りました。又、これからの生活支援は、精神に障害のある人もない人もサービスを希望する一人の住民であり、誰もが支えあって生きる町づくりの視点に立つこと。サービス提供者は、当事者の経験から学びその経験を生かしたサービスを産みだしていくことが大切だと力説され、今後の社会福祉のあり方を考えさせられました。

相談支援事業

－石家連研修事業として－

H12年度は2回（H12. 7. 31、H13. 1. 24）研修会をもちました。7月には渡辺勇さん（東京都板橋区 スペースピア地域生活支援センター）に来て頂いて定例会のもち方、家族会の相談の進め方を聞き、その後相談をうけるロールプレイをしました。2回目は、北臨床心理士（精神保健福祉センター）を混じえてSSTの技法も入れたピアカウンセリングの研修をしました。今後も研修や日々の実践を積み、少しでも身につけていきたいと痛感しました。

全家連理事長表彰を受賞

元町会会長 梅田 克 廣さん
於 全国精神障害者 家族大会
(12年11月16・17日 静岡県)

厚生大臣表彰を受賞

みのり会会長 佐野 昭 三さん
於 第48回精神保健福祉全国大会
(12年11月9日 鹿児島県)

お知らせ

平成12年度石川県精神保健福祉協会研究会

日 時	平成13年2月24日(土) 午後1時30分～4時 ※参加を希望される方は、当日		
場 所	石川県精神保健福祉センター 研修室	直接会場へおこし下さい。	
主 催	石川県精神保健福祉協会		
テ ー マ	『職場での精神保健をめぐる』		
	解 説	芳 司 俊 郎	(石川労働局労働基準部安全衛生課長)
話題提供	調査研究結果の概要	小 山 善 子	(金沢大学医学部保健学科教授 石川産業保健推進センター)
	職場での諸問題	日 野 裕	(石川製作所労務部長)
	職場復帰をめぐる	清 田 吉 和	(石川県精神保健福祉センター所長)
指定発言	行政の立場から	岡 部 牧 子	(石川県健康福祉部健康推進課主任技師)
	医療の現場から	棟 居 俊 夫	(金沢大学医学部神経精神医学教室講師)

編集後記

- 今年は15年ぶりの大雪で、皆様さぞ難儀をされたこととお察しいたします。
- 今回の特集は「家族会のこれから、21世紀に向けて」を常務理事の皆さんに語り合っ貰いました。長期に取り組まなければならない問題、今すぐ取り組めることなど様々の意見が提案されました。今後、会員の皆様のご意見と合わせながら、実現出来るよう努力するその輪の中に、一緒に入れて頂きたいと願う者です。(紺谷)